

青年海外協力隊「現職教員参加制度」派遣教員レポート(平成 28 年 10 月分)

氏 名:向井 緑(呉三津田高等学校)

現地勤務先:キルギス共和国ケミン第 2 中等学校

Рахмат & Спасибо

～ありがとう～ 国語キルギス語「ラフマツト」と公用語ロシア語「スパシーバ」



皆さん、こんにちは。 Саламатсыздарбы! (キルギス語)
Здравствуйте! (ロシア語)

短い秋が過ぎ冬の足音が聞こえてきました。各家庭ではサラダ、ジャム、ジュースなどを大量に作って瓶詰めし、野菜の少ない冬に備えます。ケミンでは 10 月 14 日に初雪が降り、辺り一面雪化粧しました。放牧地へ向かう家畜の群れも白い息を吐きながら歩いています。

今回は8月～10月の出来事及び活動の様子を紹介します。



初雪の朝



整然と進む家畜の群れ



自家製トマトジュース

<入学式・始業式(9月1日)>

9月1日の朝、生徒たちは先生に渡す花束を持って登校します。眩しい日差しが降り注ぐなか、入学式が行われ新学年がスタートしました。大きな白い髪飾りをつけ真新しい制服に身を包んだ可愛らしい新入生たちが、上級生に手を引かれて入場。緊張しながらも元気よく入学の宣誓をしました。旧ソ連時代の制服であった、紺色ワンピースにエプロンを着用したスタイルが今年は流行しているようです。



<ケミン第2中等学校 創立50周年記念式典(9月23日)>

9月23日、秋晴れの校庭で本校創立50周年記念式典が挙行されました。開始予定時刻は午前10時でしたが来賓の到着が遅れ午後1時30分から始まりました。このくらいの遅延はキルギスではよくあることなので驚きません。

生徒、保護者、卒業生、近所の人たちが大勢集まりいよいよ式典の始まりです。大きなケーキを手にした校長先生を先頭に教職員が入場すると大きな拍手で迎えられました。来賓の祝詞に続き生徒たちが歌や踊りを披露しました。この日のために練習してきたキルギス、ロシア、スペインのダンス、そして日本舞踊でお祝いムードを盛り上げました。式典の最後に50個の真っ赤な風船を大空へ放ち本校の一層の発展を祈念しました。校内には創立当時の懐かしい写真が展示され歴代の卒業生たちが昔話に花を咲かせていました。

式典後、体育館へ移動し祝宴が行われました。教職員がお金を出し合って牛を1頭購入し100人分の料理を用意しました。普段はあまり飲酒をしないキルギスの人々もウオッカを酌み交わしすっかり上機嫌の様子でした。いつの間にか歌やダンスが始まり宴会は遅くまで続きました。



<「命をいただく」ということ>



こちらでは魚よりも肉をよく食べます。私のステイ先では肉は店で購入しますが、典型的なキルギス家庭では家畜の牛、馬、羊、鶏などを食用にすることも多いようです。冠婚葬祭や大きな行事のときには何頭も料理して客人に振る舞います。

動物が食肉になる過程を見たことがありますか。私もこちらに来て初めて目にしました。さっきまで動き回っていた鶏が目の前で肉になっていくのを見た日、どうしてもその料理を口にすることができませんでした。あの光景を一生忘れることはないでしょう。

先日、羊の解体を見る機会がありました。動物の解体は男性の仕事です。小さな男の子も父親の側で作業の一部始終を見つめていました。大事な家畜ですから捨てるどころなどありません。頭、肉、血、内臓、毛皮など部位ごとに分別します。毛皮はよく乾燥させて防寒用に使うそうです。内臓の処理は女性の仕事です。タライに水を溜めて丁寧に洗います。長い腸を器用に裏返して内側まできれいにしていきます。子ども達も進んで手伝っていました。その後、表面をこんがり焼いた頭、肉、骨、内臓を大鍋に入れ煮込こみます。数時間すると肉は柔らかくなり濃厚なスープが出来上がります。これを様々な料理に使うのです。

自然の恵みに感謝しながら大切な命をいただいて生きる。忘れてはならないことをまた一つ教えたもらった気がします。

